

---

## 面会里親ボランティア 仙台でシンポ 心の支えに笑顔

---

病院や施設で暮らす障害児・者を対象にした「面会里親ボランティア制度」について考えるシンポジウムが11日、仙台市青葉区の市シルバーセンターで開かれた。既に取り組みを始めている岩手県から講師を招き、県内での制度導入の可能性を探った。

NPO法人「県重症心身障害児・者を支援する会」が主催したシンポには重症障害児・者の親の会や福祉関係者約50人が参加。父母の死亡や高齢化によって面会に訪れる親類が途絶え、心の支えを失った障害児・者を、里親が励ましたりする支援策を話し合った。

国立病院機構釜石病院で面会里親ボランティアを行っている「しゃくなげ愛育園の会」の淵上寿朗会長が活動を報告。入所者のうち約20人が身寄りがないなど孤立している現状を説明し、「子どもたちが笑顔を取り戻せるよう、宮城でもボランティア制度創設を進めてほしい」と呼び掛けた。

パネル討論も行われ、障害児・者の母親からは「自分が死んだ後に障害のある子どもがどうなるのかを考えると不安でいっぱいになる。自分たちが生きているうちにボランティア制度を創設したい」と話した。

2006年11月11日土曜日

---